

消防団定期観閲式

6月16日、伊藤鉱業アリーナつがるで定期観閲式が開催され、集まった消防団員らが、日ごろの訓練の成果を競い合いました。

現在、つがる市消防団（大淵則昭消防団長）は、56分団959人の団員で構成され、消防車両79台を配備。各地区の団員らは、それぞれに職業を持ちながらも、車両や消火栓の管理、訓練などに励み、万一の災害に備えています。



統制の取れた分列行進



式典に花を添えたラッパ隊の演奏



式典後の玉落競技大会



幼年消防クラブ行進の先頭で旗手を務める育実幼稚園の園児



火の用心を呼びかけるかしわあつがるこども園の園児

●観閲式総合成績

（服装・機械器具点検、分列行進）

- 【優勝】 柏大隊
- 【第2位】 木造第3大隊
- 【第3位】 森田大隊

●玉落競技大会（優勝）

（ポンプ車の性能別3クラス）

- 【A級】 森田第4分団
（床舞）23秒25
- 【B2級】 木造第3分団第2部
（豊田・今市）14秒80
- 【B3級】 木造第21分団第3部
（丸山）18秒02



かしわこども園の園児による消防操法

充実した日々を送るために

5/23
松の館

この日、つがる市長寿大学の開講式が行われました。式では、学長を務める山谷教育長が各地区の代表者に学生証を手渡したあと、116人の学生を代表して小山内兼一運営委員長が「学習から生活に役立つことは大いに参考にして見聞を広め、次の開講が待ち遠しくなるような楽しい大学にしましょう」とあいさつ。式終了後の第1回学習会では、NPO法人つがる野文庫の会理事長の長谷川勝則氏が「つがる市誕生秘話」と題して講演し、学生たちは合併の経緯の裏話などについて聞き入っていました。長寿大学は、「スポーツレクリエーション」や「地域防災に関する知識」など、さまざまな内容をテーマに、11月まで毎月1回開催されます。



学生証を受け取る長寿大学生

国際ふれあい事業 異文化に触れあう園児たち

5/24
育実幼稚園



全ての卵を見つけて満足げな園児たち

この日、国際交流員のオリビア・スナイダーさんが育実幼稚園を訪れ、外国語教育や異文化に触れてもらおうと、園児たちと「イースター」をテーマに絵本の読み聞かせやミニゲームなどを行いました。カラフルな絵本に興味津々で耳を傾けながら、園児たちはスナイダーさんがクイズを出すと「エッグ！ラビット！」と元気いっぱい答えていました。また、ミニゲーム（イースターエッグハント）では園内に隠された卵を夢中になって探すなど、異文化の遊びを楽しんでいました。スナイダーさんは「子どもたちがまた遊びたいと言ってくれるのがとてもうれしい。異文化の人と触れ合うことで、園児たちの世界観が少しでも広がれば」と話しました。

初フェスタで防災意識を高める

この日、つがる地球村で初のイベントとなる「2024 つがる地球村防災とキッズフェスタ」が開催されました。会場では、救急救命や防災キャンプの講習会が行われ、参加した子どもたちは、応急処置やロープの結び方などを真剣に学びながら体験しました。木造地区から親子で参加した一戸さんは「最近では災害が多いので、万が一の時に子どもが少しでもこの体験を生かしてもらえたら」と話していました。また、イワナつかみ取りや棒パン作りなど多彩な催しもあり、多くの家族連れでにぎわいました。

5/26
つがる地球村



親子で救急救命講習を体験



イワナつかみ取りにチャレンジ



消防隊員とVRで消火体験



大人気だった棒パン焼き